

北海道高性能林業機械化推進協議会（第2回）議事概要

1 日時及び場所

令和元年（2019年）10月24日（木）14:00～17:00
道庁11階水産林務部1号会議室

2 出席者

<構成員：18名>

国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所 佐々木研究専門員
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 対馬森林経営部長
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 渡辺主任主査（経営）
株式会社諸岡北海道営業所 進藤所長
コベルコ建機日本株式会社北海道支社 玉井支社長
株式会社筑水キャニコム 中村常務経営役員
松本システムエンジニアリング株式会社 松本代表取締役社長
大澤木材株式会社 大澤代表取締役社長
株式会社イワクラ木材部苫小牧出張所 大宮副支店長
千歳林業株式会社 栃木代表取締役社長
北海道素材生産業協同組合連合会 工藤専務理事
林野庁北海道森林管理局 西浦課長補佐
林業木材課 加納林業振興担当課長
林業木材課 立原主幹、森林計画課 佐川主幹、森林整備課 小南主幹、
森林活用課 淡路総括普及指導員兼主幹、道有林課 谷口主幹

<オブザーバー：3名>

一般社団法人北海道林業機械化協会 藤八事務局長
株式会社イワクラ 高橋取締役
堀川林業株式会社 高篠専務取締役

<事務局：7名>

林業木材課 村下主幹ほか

3 議事

(1) 議事次第

- ・令和元年度（2019年度）北海道高性能林業機械実態調査に係る中間報告について
【資料2】北海道高性能林業機械実態調査の中間報告書により説明。
- ・北海道における森林・林業の現状と課題について
【資料3】北海道における森林・林業の現状と課題（ver2）により説明。
- ・「北海道高性能林業機械化方針」の改定方向について
【資料4】「北海道高性能林業機械化」方針に向けて（たたき（案））により説明。

(2) 主な議事内容

- ・事業体への聞き取り調査より、労働災害の撲滅と担い手不足による労働の省力化の観点から、チェーンソー伐倒から機械伐倒に移行したいと考えている事業体が多く存在している。
- ・機械伐倒が進むことで路網を起点にして上下に作業をする施業方法が主体になると考えられることから、伐倒ではロングリーチの林業機械の活用が考えられるが、課題となっているアタッチメントの重量、ベースマシンの転倒リスクを解消していくことが重要。
- ・近年、高性能林業機械の導入が進んでいるにも関わらず、生産性が伸びていない現状があるので、実態を精査していく必要がある。
- ・高性能林業機械の導入を推進していく上で、林業機械の高額な維持費は事業体にとって課題となっており、事業体が自ら林業機械の整備を行えるように、オペレーターを対象とした機械メンテナンス研修が求められている。
- ・高性能林業機械を活用した効率的な造材システムを構築していくためには、間伐時に林業機械が入って施業することを踏まえて、植栽時の列間・苗間の幅から考えていく必要がある。
- ・今後、何十年先の北海道の林業を見据えたときに、森林伐採量が森林成長量を上回り、森林資源が枯渇しないように、再造林率100%を目指していく必要があることから、担い手が不足している造林・保育分野での機械化、コンテナ苗を活用した効率的な造林システムの構築が必要となる。
- ・北海道では木質バイオマス発電所が4つ稼働しており、林地未利用材を効率よく集荷して使用する動きが大きくなってきたことから、林地未利用材の集荷で大きな問題となっている1回の運材で少量しか運べないこと、造材時に土砂が混入してしまうことを解決することができる林業機械の開発・造材システムの構築が求められている。